

# 心をつなぐ「ひろか和のつどい」 歌と語りの人権コンサート

12月8日(土)、広川町産業展示会館で開催された「ひろか和のつどい」で、武末龍泰さんによる歌と語りの人権コンサートが行われました。



武末さんは、かつて小中学校の校長を勤め、現在は障がい者支援施設に勤務しています。コンサートでは、今までに出会った障がいを持つ多くの子どもたちとの交流をもとにした、重みのある優しい言葉が紡がれました。その一部を紹介します。

「地域がつながれば大きな財産になります」

「子守歌は地域の大きな財産の一つです。子守歌には『寝かせ歌』『遊ばせ歌』『守子歌（子守奉公の子どもの歌）』などの種類があります。守子の気持ちを文化として次世代へ伝えたいもの

です」  
「いじめや差別など、心の叫びを受け止める人がいなければ、叫びは聞こえない」  
「ある教師は、被差別部落出身であることを隠して生きていました。しかし彼は、同和教育推進教員としていろいろな人と出会うことで、みんなとともに多くの差別に立ち向かおうと立ち上がりました」  
「ありがとうございます、ごめんなさい、もっとそんな言葉が増

えたら、いじめ、差別は少なくなるのでは」  
「人はみんな、誰かに借りを作りながら生きていきます。自分はボランティアなどで、みんなに借りを返していきたい」

コンサートでは、人権について考えるきっかけとなる曲が披露されました。その一部の歌詞を引用してご紹介します。

「差別があるから語れない差別があるから伝えたい一番言いたくないことは一番わかかってほしいこと」

【このころの叫び】より

「ファイト！」

闘う君の歌を

闘わない奴等が笑うだろう

ファイト！

冷たい水の中を

ふるえながら登ってゆけ」

【ファイト】より

「目と目が合えば

言葉はいらない

私が好き

あなたが好き

この街が好き」

【この街が好き】より

## 参加者の感想

- すばらしい歌とトーク、ありがとうございます。とても心が休まりました。涙が出る瞬間もあり、とてもすばらしい一日を過ごすことができました。(70代)
- 心をつなぐことは日々の生活の中で生まれてくるものである。今を大切に、若い人たちに伝えたいです。(70代)
- ぜひともあと一曲聴きたかった。(50代)
- 普段は差別を意識していない自分が恥ずかしくなりました。(40代)
- 歌詞カードを読みながら聞き、歌の意味を十分味わうことができました。(50代)

当日はジャズバンド eM.J.B. の皆さんが演奏を担当。ジャズ用にアレンジされたクリスマスソングなども奏でられました。

圃教育委員会事務局

人権・同和教育係

☎0943・32・0093



# 新しく町指定文化財になった 「あかがり地蔵」【その2】

寛延2年（1749年）、古賀組大庄屋稲貝武次郎が藩庁に書き上げた「神社仏閣辻堂古城跡申傳書上」を、嘉永5年（1852年）に基只（長延村庄屋萩尾氏か）が写し取ったものが残っています。あかがり地蔵について、

（前略）老民申し伝え候は、往古ハ銅の仏体これ有り候。奈良地蔵・関の地蔵・上妻郡の内銅地蔵、三霊仏と申す説これ有る由、中古より石佛ニ成り候由申し伝え候。あかがねをあかがりと唱え誤り候と聞候云々

と記述されています。奈良や関（岐阜県）のお地蔵様がどこにあり、どのようなものなのか、全く分からぬにもかかわらず、地元のお地蔵様だけは詳しく

く記されています。日本三霊仏の一つと唱える説もあるなど、当時の住民の心意気やアイデンティティが垣間見えます。

あかがり地蔵が延命地蔵で、異名地蔵の一つでもあることは、先月号で述べました。今月号では祀られた年代について、彫刻技法から考えてみます。

あかがり地蔵の尊像は彫りにされ、緑泥片岩（青石、長延石とも呼ばれる）の板石をえぐって身光（身体から発する仏光）や輪光（頭部から発する仏光）が表現されています。

このような彫刻技法は、筑後地域に散在して見られる応永年号（1394年～1427年）のものによく似ています。俗にいう応永地蔵の系統に連なるもので

あれば、かれこれ600年くらい前のものといえます。年代については、さらなる類似例の調査が必要です。

江戸時代、あかがり地蔵の一带にはあかがり茶屋があり、交通の要所でした。宝暦13年（1763年）11月19日の「石原家記」の記事では、

（前略）三丁目に居候與市と申者、只今長延村の内あかがり地蔵菩薩の前へ居候。此間娘出生七夜の内、猫がくらはひころし候由、尤ほう背など喰候よし。

という、ショッキンガな話が記録されています。人さ

えも満足に食えることができなかつた時代、あながち荒唐無稽な話とはいえませんが、

あかがり茶屋に關しても、地元の古老は「怖い場所なので、なかなか近づくことはできなかつたらしい」と話しています。

茶屋場が成り立つということ、交通の要所だったという事です。現在は長延区公民館前にある丁場石も、元は久留米城下から福島へ進む豊後別道と、甘木村・忠見村本・長野村から星野谷へと進む山中街道が交わる辺りにあったのではと考えています。

広川町郷土史研究会



長延村の丁場石。現在は長延区公民館前に移設されている。

## 広川町古墳資料館だより

発掘調査で得られた人骨や獣骨などの古骨を研究する「骨考古学」が進歩しています。

頭蓋骨から生前の顔を復元することを「復顔」といいます。復顔師の戸坂明日香氏によると、復顔は3Dプリンターで作られた骨のレプリカをもとに制作されます。そこに筋肉や脂肪、皮膚などの軟部組織を粘土で肉付けし（粘土原型）、質感を加えます（原型）。この原型からFRP樹脂で型取りし、目に義眼をはめ、着色すると復顔の完成です。

太田区の岩坪石棺からは、良好な弥生時代の頭蓋骨が2体出土しました（写真）。どちらも古代の広川町の女性であり、「復顔」に挑戦してみたいものです。

